B04 福井県で見出され我国初確認となった欧州共通紅斑熱の疫学的背景

○高田 伸弘¹, 石畝 史², 野路 善博³, 藤田 博己⁴, 矢野 泰弘¹, 岩崎 博道¹ (1 福井大・医, 2 福井県衛環研, 3 福井県病・内科, 4 大原病院・大原研)

Epidemiological background on spotted fever in common with Europe, found in Fukui Prefecture and first in Japan

Takada, N., Ishiguro, F., Noji, Y., Fujita, H., Yano, Y., Iwasaki, H.

我々は科研調査「アジアにおける節足動物媒介感染症の拡散様式」の中で、我国の紅斑熱群リケッチア症についても大陸との関連性を調べて来て、国内各地（福井県含む）の *Ixodes* 属が欧州と共通の *Rickettsia helvetica* (Rh) を保有することを見出し、これによる感染が各地に潜在する可能性を指摘していた。そういう中で、2004 年 7 月に福井県大野市荒島岳で感染した紅斑熱患者を見出し、我国北限域での確認として報告したが (Noji et al, 2005), これが環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査を進めたところ、上記 Rh 感染の紅斑熱であることが分かった。Rh 感染例としては我国ひいては極東アジアで初確認となるもので、同症の大陸との関連を公に示す意義がある。現在、2004 年の高温続きなど気象要因とベクターの関連も視野に、大野地区でベクターの生息相や紅斑熱群リケッチアの検出など継続中であり、ここでは概要を報告する。〈共同研究者：P-E. Fournier(Univ. Mediterranee)〉

B05 日本紅斑熱発生地におけるヒト感染とイヌの関わり (第 1 報)

○馬原文彦¹, 藤田 博己², 堤 寛³, 稲田 健一³, 宇都宮 洋才⁴, 土橋 賢治⁵ (1 馬原医院, 2 大原総合病院大原研究所, 3 藤田保健衛生大学医学部第一病理学, 4 和歌山県立医科大学中央研究機器施設, 5 土橋動物病院)

Study on a role of dog in the endemic area of Japanese spotted fever

Mahara, F., Fujita, H., Tsutsumi, Y., Inada, K., Utsunomiya, H., Tsuchihashi, K.

日本紅斑熱の媒介動物の研究はマダニ類を中心として展開されてきた。しかし、マダニを巡る共通感染者もしくは自然界におけるリザーバーに関してはまだ十分に解明されていない。演者らは 2004 年 8 月に徳島県で日本紅斑熱の患者が入院中に飼犬が急死するという 1 事例に遭遇した。このイヌの行動範囲は患者の感染推定地点を含み、患者と前後した感染も推定されたことから、このイヌを剖検してリケッチア感染の有無を検査したところ、脾臓と腎臓組織内に免疫染色法でリケッチア抗原が証明された。

この経験を契機として、日本紅斑熱の伝搬とイヌの関わりについての研究を開始した。徳島県の日本紅斑熱発生地において、患者宅の飼犬 4 頭と猟犬 1 頭について、病原リケッチアに対する抗体価を測定したところ、5 頭中 2 頭が陽性、1 頭が疑陽性の結果で、イヌのリケッチア感染が改めて確認できた。

日本紅斑熱の予防対策として、人獣共通感染症としてのペットや家畜の関わりに関する研究は今後重要な課題であると考えらる。